Kitakyushu
SDGs

北九州市サステナビリティボンド（SDGs未来債）

Impact Report Handbook

SDGs未来都市としての
北九州市の取組

SDGsの達成に向けて ～日本で一番住みよい街へ～

Kitakyushu SDGs

- 2018年4月に、OECDよりアジア地域では初めて「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定され、 同年6月には国より「SDGs未来都市」に選定されるなど、国内外で高い評価をいただいています

～「SDGs」とは ～

- 2015年9月の**国連サミット**で、**すべての加盟国（193ヵ国）が採択した国際目標**
- 発展途上国のみならず、**先進国自身も取り組む**
- **2030年まで**の目標であり、**17の目標（ゴール）の達成**を目指している

第1回 「ジャパンSDGsアワード」 特別賞を受賞 （2017年12月）	OECDより 「SDGs推進に向けた 世界のモデル都市」に選定 （2018年4月）	国より「SDGs未来都市」 「自治体SDGsモデル事業」に 選定 （2018年6月）	国の「地方創生SDGs 官民連携プラットフォーム」の 会長に市長が就任 （2018年8月）
280団体以上が応募 **12団体受賞** （自治体は**本市**と下川町のみ）	**アジア地域で初めて選定**	29都市選定 （うちモデル事業**10都市**）	
（写真提供：内閣広報室）	共同記者会見	市長会見	設立総会

SDGs未来都市計画で北九州市が目指すもの

Kitakyushu SDGs

- 令和3年3月に、第二期となる「北九州市SDGs未来都市計画」を策定しました
  SDGsを原動力に地方創生や地域活性化を図り、「市民生活の質（Quality of Life）の向上」「都市ブランド力の向上」につなげ、「日本一住みよいまち」の実現を目指します

北九州市のSDGs戦略（ビジョン）（2030年のあるべき姿）

「真の豊かさ」にあふれ、世界に貢献し、信頼される「グリーン成長都市」

- 上記のSDGs戦略（ビジョン）に基づき、様々な取組を進めていきます

経済　人と環境の調和により、新たな産業を拓く

1. 先進のまちを目指した新たなビジネスやイノベーションの創出
2. 地域経済における自律的好循環の形成
3. 働く場の地方分散・柔軟な働き方の普及
4. 新たな企業価値を生み出すSDGs経営の普及

優先的なゴールとKPI

- **従業者一人あたり市内GDP（名目）**
  現在（2016年）：8,481千円 ⇒ 2030年：**9,320千円**
- **社会動態の増減**
  現在（2020年）：▲757人
  ⇒ 社会動態プラスの早期達成及び維持
- **「北九州SDGs登録制度」登録事業者数**
  現在（2020年3月）：0 ⇒ 2030年：**500**

社会　一人ひとりが行動し、みんなが輝く社会を拓く

1. ダイバーシティの推進等による誰もが活躍できる場の創出
2. 市民参加型の活動による生活の質（QOL）の向上
3. 市民の健康（幸）寿命の延伸
4. 変革を支え、リードする教育・人材育成の推進
5. 感染症に対応した安心して暮らせる社会の構築

優先的なゴールとKPI

- **付属機関等の女性委員の参画率**
  現在（2020年7月）：付属機関等の女性委員参画率が平均で50%超
  ⇒ 2023年：**全ての付属機関等の女性委員参画率が50%超**
- **「子育てしやすいまち」と感じる市民（子育て世代）の割合**
  現在（2019年）：88.6% ⇒ 2024年：**90%以上**

環境　世界のモデルとなる持続可能なまちを拓く

1. 脱炭素エネルギーの安定的な供給体制の構築
2. 市民・企業との協働による循環システムの構築
3. コンパクトなまちの形成によるストック型社会の創造
4. 技術と経験を生かした国際貢献の推進

優先的なゴールとKPI

- **再生可能エネルギー導入量**
  現在（2018年7月）：288,000kW ⇒ 2030年：**700,000kW**
- **市民1人一日あたりの家庭ごみ量**
  現在（2019年）：468g ⇒ 2030年：**420g**
- **ごみのリサイクル率（かん・びん・ペットボトルなど）**
  現在（2019年）：28.0% ⇒ 2030年：**32%**

オール北九州でのSDGs達成に向けた取組

Kitakyushu SDGs

- 産官学民、様々なステークホルダーの連携・交流プラットフォームとして「北九州SDGsクラブ」を創設。また、地域課題の解決に向けた民間主体のプロジェクトチームが発足し、会員同士が連携してSDGsの達成に向けた取組を推進しています

北九州SDGsクラブ

北九州市SDGs協議会【有識者会議】

市民　企業　学校　団体（NPO）

会員間のパートナーシップ（マッチング）

- 交流会（活動発表）
- 情報発信

会員数【2022.5月末現在】

1,897	企業	学校	団体	市民
	915	247	244	491

助言　支援

北九州市

「プロジェクトチーム」

地域課題の解決のため、共通の課題を持ったクラブ会員が主体的にプロジェクトを立ち上げ、会員同士が連携してSDGsの達成に向けた取組を行う。

地域の課題解決のための具体的なプロジェクトの実行

市民　企業　学校　団体

SDGs達成への先駆的な取組	地域課題の解決	会員間の連携促進

▶ **イノベーション加速**　・取組みの「具体化」　・SDGsの「見える化」

＜発足したプロジェクト＞

2019年度：4件（防災、高大接続など）
2020年度：2件（まち美化、紙の循環と障がい者の雇用促進）
2021年度：1件（住宅端材のアップサイクルと障がいのある人の雇用促進）

Kitakyushu SDGs

昨年の春に開催し、ポストコロナ時代の新しい生き方のビジョンを発信した「北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs」のレガシーを引き継ぎながら、SDGsの実現を目指すという本市のメッセージを視覚化するため、北九州SDGsマークを制作しました

SDGs経営による企業の競争力UP

Kitakyushu SDGs

- 2020年1月、北九州SDGsクラブ会員である金融機関と、「SDGsの達成」という共通の目標のもと、地元企業のSDGsの取組を支援するため、協定を締結しました
- 2021年8月には、企業のSDGsの取組を「見える化」するため「北九州SDGs登録制度」を創設しました

市内20金融機関と協定締結 全国初！

ESG・SDGsコンサルティング、ビジネスマッチング等で、地元企業のSDGs経営をサポート

北九州SDGsクラブ | **SDGs経営サポート**

経営戦略へのSDGs活用に取り組む企業の支援

企業の皆様が抱えるSDGs経営の課題

SDGsクラブ会員企業

さまざまな業種

製造業、運輸業、飲食業、農林・水産業など…

SDGs経営の課題例

経済 / 社会 / 環境

- ESG金融
- 女性活躍
- 人材確保
- 海外展開
- 働き方改革
- 健康経営
- ビジネスマッチング
- 環境配慮型調達

様々な金融機関によるSDGs経営サポート

国内事業	海外事業
地方銀行等	銀行
都市銀行	損害保険会社
生命保険会社	
損害保険会社	

エントリーシートで依頼

SDGsクラブ事務局

ワンストップで情報提供

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 北九州 Kitakyushu SDGs クラブ SDGs Club

北九州SDGs登録制度 令和3年8月創設

ESG投資・脱炭素の要請が高まる中で、地元企業へSDGs経営の普及

例

経済	社会	環境
調達	労働環境	再エネ、3R

登録

- **自社の取組みを「見える化」**
- **北九州市SDGs未来都市計画との「関連付け」**

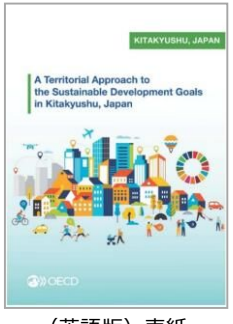
市内企業の更なる活性化・地域経済の発展

「OECD SDGs北九州レポート」が完成
アジア地域初！「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」【北九州市】

Kitakyushu SDGs

- 本市は、平成30年4月に、世界38ヵ国が加盟する国際機関OECDより、「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」として、アジア地域で初めて選定されました
- その後、約2年にわたる、OECDの独自の分析・調査を経て、「OECD SDGs北九州レポート」が完成しています

OECD SDGs北九州レポート



（英語版）表紙

（日本語版）表紙

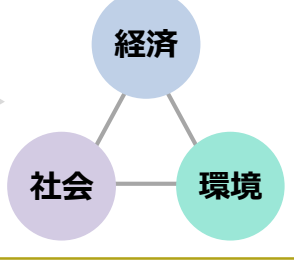
OECD（経済協力開発機構）：世界最大のシンクタンク

OECDが、世界９つのモデル都市の１つに本市を選定し、アジア唯一の「SDGsレポート」として、世界に発信！

OECDより評価された3つの優良事例

- **国際協力！**
- **子ども食堂！**
- **洋上風力発電！**

SDGsを活用した相乗効果を創出！



「世界のSDGsモデル都市」に選定
（H30.4 OECDとの共同記者会見）

国連会合でアジア唯一の首長発表！
（H30.7 ニューヨーク国連本部）

“国内外”へ向けて北九州市のSDGsを発信！

期待される効果

- **ESG投資の呼び込み**
- **SDGsの認知度向上**
- **環境と経済の好循環**

SDGs未来基金・サステナビリティボンド

Kitakyushu SDGs

- 令和3年4月、SDGsの達成に資する事業を積極的に推進するための安定的な財源として、新たな基金を創設しました
- 令和3年10月、SDGs達成に向けた取組を推進するための資金調達の一環として、自治体初となる「サステナビリティボンド」、愛称「北九州市SDGs未来債」を発行しました

SDGs未来基金　令和3年4月創設

SDGsの達成に資する事業を積極的に推進するための安定的な財源として新たな基金を創設

本市のSDGs戦略に掲げる「グリーン成長都市」の実現を強力に後押しする新たなエンジンを創出

北九州市 SDGs未来債　自治体初

SDGs達成に向けた取組を推進するための資金調達の一環として、自治体初となるサステナビリティボンドを発行

募集した資金は、SDGs関連プロジェクトに活用

洋上風力発電関連事業

新科学館の整備

豪雨災害等の防災対策事業

特別支援学校の整備

“市の持続可能な未来” に繋げていきます

北九州市のSDGs施策 ～OECDに評価された優良事例～

Kitakyushu SDGs

- OECDより、「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」として、国際協力、子ども食堂、洋上風力の事例にて特に高い評価を獲得しています。引き続き、経済・社会・環境の相乗効果により、先進的な取組を継続してまいります

国際協力・ビジネス

北九州市は公害克服の経験や技術を活かしアジア地域への国際協力に取り組んできた。さらに「エネルギーマネジメント」「廃棄物処理」「水ビジネス」などの分野を中心にアジア諸都市や企業のニーズに応える「都市インフラ輸出」を進めている

国際技術協力

各国へ専門家を派遣
各国から研修員を受入

- 経験やノウハウの蓄積
- 人材育成
- 人的ネットワークの形成

グリーンシティ輸出

①公害克服の経験・ノウハウ
②環境・エネルギー技術
③都市間連携等のネットワーク

環境姉妹都市・姉妹都市協定締結

スラバヤ市（インドネシア）
ハイフォン市（ベトナム）
プノンペン都（カンボジア）
ダバオ市（フィリピン）

▶ **アジア地域における脱炭素化へ貢献**

海外水ビジネス

「北九州市海外水ビジネス推進協議会」と連携し
ベトナム、カンボジアを中心に海外水ビジネスを展開

カンボジアでの技術協力

子ども食堂

平成28年度からモデル事業として子ども食堂を実施。平成29年8月には「子ども食堂ネットワーク北九州」を立ち上げ、取組をバックアップ

子ども食堂とは

地域の大人が子どもに無料または低額で食事を提供する取組

▶ **孤食の防止、地域の子どもの居場所確保**

子ども食堂の様子

子ども食堂ネットワーク北九州

民間を主体とした子ども食堂の活動の支援のため、「子ども食堂ネットワーク北九州」において、情報提供や意見交換、研修、寄付の関係など様々なサポートを行い、子ども食堂関係者の負担を軽減

(1) 子ども食堂に関する情報提供や意見交換
(2) 衛生管理に関する研修等
(3) ボランティアや寄付関係
(4) 行政団体等との対応

子ども食堂の登録制度

市が定める一定の基準をクリアした子ども食堂は「市の事業に準ずる活動をする子ども食堂」として、市民センターを全額減免で利用可能

洋上風力

若松区響灘地区のポテンシャルを活かし、風力発電関連産業の「総合拠点」の形成に向けた取組を平成23年度から進めている

総合拠点とは

風力発電関連産業に必要な４つの拠点機能を集積した「総合拠点」を形成

① 風車部品の積出し
② 輸出入・移出入
③ 各種産業
④ O&M

▶ **関連施設・企業の誘致を進行中**

風車機種候補
※写真は同型モデルの風車

総合拠点のイメージ図

北九州市令和3年度
サステナビリティボンド
(愛称：北九州市SDGs未来債)
の概要

北九州市令和3年度サステナビリティボンド　発行概要

Kitakyushu SDGs

- 令和3年10月、北九州市サステナビリティボンド（北九州市SDGs未来債）として、機関投資家向けに100億円、個人投資家向けに5億円を発行しました

令和3年度 機関投資家向け

項目	発行概要
銘柄名称	第1回北九州市サステナビリティボンド 10年公募公債
年限	10年（償還日　令和13年10月28日：満期一括償還）
発行額	100億円
利率	0.145%
発行時期	10月28日（木曜日）
主幹事会社	みずほ証券株式会社（事務）、 SMBC日興証券株式会社
購入対象先	機関投資家

令和3年度 個人投資家向け

項目	発行概要
銘柄名称	第1回北九州市サステナビリティボンド 5年公募公債（個人向け）
年限	5年（償還日　令和8年10月28日：満期一括償還）
発行額	5億円
利率	0.05%（税引き前）
発行時期	10月28日（木曜日）
募集期間	10月8日（金曜日）～ 22日（金曜日）
購入限度額	お一人様1,000万円まで（1万円から1万円単位）
購入対象先	（1）北九州市内にお住まいか、お勤めの個人 （2）北九州市内に事業所のある法人・団体 （3）北九州市を応援する個人・法人等

北九州市令和3年度サステナビリティボンド　投資家一覧

- 機関投資家向けサステナビリティボンドにて、41件の投資家の皆様より発行意義に共感いただき、投資表明を実施いただきました
- 個人投資家向けでは、市内・市外双方の158人・団体の皆様に購入いただきました

令和3年度 機関投資家向け債　投資表明投資家一覧

- アセットマネジメントOne株式会社
- 一般財団法人 北九州市教職員互助会
- 一般社団法人 全日本冠婚葬祭互助協会
- 岩手県市町村職員共済組合
- 上野精機株式会社
- 大石産業株式会社
- 学校法人 淺野学園
- 学校法人 西南女学院
- 株式会社鹿児島銀行
- 株式会社七十七銀行
- 株式会社十六銀行
- 株式会社大光銀行
- 株式会社第四北越銀行
- 株式会社千葉銀行
- 株式会社中京銀行
- 株式会社東京きらぼしフィナンシャルグループ
- 株式会社ドーワテクノス
- 株式会社ニシコン
- 株式会社西日本シティ銀行
- 株式会社西日本メタル
- 株式会社西本町鉄工所
- 株式会社みずほ銀行
- 株式会社三菱UFJ銀行
- 株式会社みなと銀行
- 株式会社山口銀行
- 公益財団法人 北九州観光コンベンション協会
- 公益財団法人 北九州市身体障害者福祉協会
- 公益財団法人 自動車リサイクル促進センター
- 公益財団法人 ニビキ育英会
- 社会福祉法人 サンシャイン福祉振興会
- 信金中央金庫
- 第一生命保険株式会社
- 千葉県市町村総合事務組合
- 地方公務員共済組合連合会
- 東京汽船株式会社
- 東京都職員共済組合
- 日豊ホールディングス株式会社
- 萩山口信用金庫
- 濱田重工株式会社
- 福岡ひびき信用金庫
- 増成動力興業株式会社

（五十音順）

令和3年度 個人向け債の投資家

- **購入者**：158人・団体（うち市外在住の本市を応援する個人・法人等：22人・団体）
- **市外購入者の例**：東京都内に事務所のある、北九州市出身者の親睦を図る社団法人
  親族が北九州市内に在住する個人
  仕事で北九州市内を来訪する個人

令和3年度
北九州市SDGs未来債
サステナビリティボンド・フレームワーク
にもとづく
レポーティング

令和3年度 サステナビリティボンドの管理・運営・透明性評価について

プロジェクトの評価及び選定のプロセス	● 資金使途は本市のSDGs戦略（ビジョン）達成に向けた取組を推進するものに充当します。個別事業は、必要に応じて公共事業評価や環境アセスメントなど専門性のある審査を経て北九州市議会が審議・議決し、予算として計上したもので、この中から財政局財政課及び関係部署で協議して選定、財政局長が最終決定しています。
調達資金の管理	● 調達資金は調達した年度中に対象事業に全額充当します。調達資金は財政局財政課が起債管理システムにおいて、調達した資金毎に、充当した事業を常時追跡・管理するほか、内部監査を通じて残高を確認します。 ● 充当されるまでの間は現金または現金同等物にて管理します。充当計画に大きな変更が生じる等の重要な事象が生じた場合は、年次での開示に限らず適時に開示します。
レポーティング	● 資金充当が完了するまでの間、資金充当状況および環境改善効果・社会的成果に関する情報を本市のウェブサイトにて開示します。調達資金の充当計画に大きな変更が生じた場合や、充当後に充当状況に大きな変化が生じた場合は、速やかに開示します。

令和3年度 資金の充当状況・環境改善効果に係るレポーティング
～ グリーンプロジェクト ～

Kitakyushu SDGs

- 再生可能エネルギーなど脱炭素社会の実現に向けた対応、気候変動により近年頻発する豪雨災害等から市民を守る防災対策など環境改善効果のある事業等、以下の環境改善効果を有する事業に充当しました

プロジェクト分類	対象事業	充当金額（百万円）※十万円単位は四捨五入 機関投資家分	個人分	効果/実施事業内容
再生可能エネルギー	■ 響灘地区の充実した港湾インフラと広大な産業用地を活用した、風力発電関連産業の総合拠点の形成	178	20	■ 洋上風力発電に係る基地港湾整備 1.2ha、響灘東地区SEP船等基地化 0.4ha、響灘東地区埋立地整備 0.7ha ■ R6年度目標：響灘地区総合拠点利用ファーム数 5件（R3年度時点1件）、響灘地区総合拠点の産業用地利用率 80%（R3年度時点31.7%）
気候変動への適応	■ 河川整備	1,346	100	■ 護岸改修：合計650m（笹尾川、相割川等）、河川管理道整備：100m（横代川）、護岸長寿命化改修32か所、河川維持事業（浚渫）925㎡、河道掘削5,110㎥（紫川） ■ 整備により減少する被害戸数：（一例）紫川13,000戸（R24年度完了後の予定数）
	■ 上下水道整備 ※持続可能な水資源・排水管理にも該当	1,000	-	■ 豪雨対策の拡充・強化：8か所、1,136m
	■ 港湾整備	590	-	■ 護岸整備345m（新門司北地区）、橋面舗装2,100㎡（響灘東地区）、泊地浚渫合計13,290㎥（新門司南・日明地区）等、整備件数10件
	■ 災害時の情報収集・伝達体制の整備（総合防災情報システム構築）	114	-	■ 気象情報や被災状況を効率的に収集・共有し、正確な情報発信を可能とするシステムを構築。整備件数：1件
汚染の防止及び抑制	■ ごみ処理施設等の整備	998	65	■ 新門司工場、皇后崎工場、日明工場等、4か所の工場整備 ■ R7年度リサイクル率30%以上、R7年度CO2排出量60千トン以下を見込む（R3年度時点 27.9%、94千トン）
生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理	■ 地域固有の生態系の保全と自然環境に配慮したまちづくり（公園整備等）	966	65	■ 緑化面積：合計20,006㎡、公園整備面積：合計100,875㎡ ■ 市内の緑に親しむ公的空間の確保量（一人当たりの都市公園面積）：12.87（㎡/人）
エネルギー効率	■ 公共施設のエネルギー消費量の削減（市保有施設の照明のLED化や老朽化施設やエネルギー多消費施設における省エネ機器の採用等）	318	-	■ 市民センター25館の空調改修により、冷房時消費電力14.4%、暖房時消費電力22.6%削減見込み ■ 道路照明44個のLED化により、28.9MWh、12.8t-CO2/年削減見込み ■ エアコン更新事業（小中学校）：18校
合計		5,509	250	

令和3年度 資金の充当状況・社会的成果に係るレポーティング
～ ソーシャル ～

Kitakyushu SDGs

- 誰一人取り残すことなく未来を担う人材を育成する環境整備等、以下の社会課題の解決に資する事業に充当しました

プロジェクト分類	対象事業	充当金額（百万円）※十万円単位は四捨五入		効果/実施事業内容		
		機関投資家分	個人分	アウトプット	アウトカム	(参考)インパクト
必要不可欠なサービスへのアクセス	■ 特別支援学校整備	988	125	■ 小倉総合特別支援学校整備（スロープの増設、既存建築物の解体及びグラウンド整備） ■ 小池特別支援学校整備（現地建替等）	■ 利用者数合計：334人（児童生徒数、R3.5.1時点）	誰一人取り残すことなく未来を担う人材を育成する環境を整備
	■ 子ども総合センター整備	21	-	■ 一時保護所機能強化1件（個室の増設約90㎡）、子ども総合センター執務室拡張1件（約197㎡）	■ 個室数増加：6室 ■ 職員数（7階）：約30人	
	■ 保育所等整備	131	-	■ 老朽化直営保育所施設改修工事（大規模・中小規模）：6か所 ■ 保育所の改築・創設：6か所	■ 定員数合計：1,089人	
	■ 小中学校等整備	1,123	-	■ 学校施設等改修：小学校15校、中学校11校、大規模改修：小学校13校、中学校3校、外壁改修：小学校7校、中学校3校 ■ デジタル化に対応した産業教育装置の整備：市立高等学校商業科実践室 6教室　等	■ 小学校：352人/1校 ■ 中学校：361人/1校 （市内の生徒数/学校数で算出、R4.5.1時点）	
	■ 新科学館等整備	2,032	125	■ 新科学館の整備（展示及び内装・設備、プラネタリウム）面積：5,470㎡ ■ もじ少年自然の家（老朽化した青少年施設の改修工事）面積：3,566㎡	■ 新科学館：利用者数約50万人（R4見込） ■ もじ少年自然の家：利用者数約8,000人	
手ごろな価格の基本的インフラ設備	■ 区役所の自家発電設備整備	25	-	■ 小倉北区役所の自家発電設備の整備：1件 災害時の区対策本部の機能保持に必要な電力確保、電源供給時間の延長	■ 電源供給時間の増加：東棟 52時間→57時間、西棟26時間→57時間 ※災害時の必要電力等を想定した条件下での推計	防災機能の強化によるレジリエンスな社会
	■ 避難場所、消防施設等の整備・改修	172	-	■ 城野市民センター：建替1件、面積：784.99㎡	■ 想定受入人数（城野小学校区）：148人	
合計		4,491	250			

令和3年度 サステナビリティボンドの資金使途について①

プロジェクト分類	対象事業	環境面での便益
再生可能エネルギー	■ 響灘地区の充実した港湾インフラと広大な産業用地を活用した、風力発電関連産業の総合拠点の形成	■ 温室効果ガスの排出削減

風力発電関連産業の総合拠点化

響灘地区港湾（整備実施中）

! 本市の強み
～西日本で唯一の基地港湾～

- 本市は、若松区響灘地区のポテンシャルを活かし、風力発電関連産業の「総合拠点」の形成に向けた取組を平成23年度から進めています。
- R3年度は、以下の整備事業等を実施しました。

① 洋上風力発電施設の設置に必要な基地港湾の整備を実施

② 響灘東地区に入港するSEP船(※)が岸壁を適切に利用できるよう、海底面の調査や航行安全検討等を行い、必要な整備を実施

③ 響灘東地区における企業立地の促進を図るため、用地の整備（道路、水道等の敷設）、区画内の整地等を実施　※SEP船：自己昇降式作業台船

- 引き続き、他都市に先駆けて風力発電関連産業の総合拠点化に取り組むことにより、再生可能エネルギーの活用による温室効果ガスの排出削減に貢献してまいります。

整備面積（洋上風力発電に係る基地港湾整備）	1.2ha (全体4.6ha)
整備面積（響灘東地区SEP船等基地化事業 ）	0.4ha (全体1.2ha)
整備面積（響灘東地区埋立地整備事業）	0.7ha (全体53.4ha)
響灘地区総合拠点利用ファーム数	5件 (R6年度目標) (R3年度時点1件)
響灘地区総合拠点の産業用地利用率	80% (R6年度目標) (R3年度時点31.7%)

令和3年度 サステナビリティボンドの資金使途について②

プロジェクト分類	対象事業	環境面での便益
気候変動への適応	■ 河川整備 ■ 上下水道整備 ※持続可能な水資源・排水管理にも該当 ■ 港湾整備	■ 水災害など発生時の浸水、土砂被害の緩和 ■ 水災害など発生時における安全・安定的な水道インフラの供給 ■ 汚水の放流先の汚濁負荷低減

河川整備・上下水道整備

笹尾川

相割川

- 浸水被害の軽減、災害が発生した際の市民の命・生活・財産を守るため、河川整備や上下水道整備を進めました。
- 河川整備では、笹尾川、相割川、江川、紫川等の護岸改修や、横代川の河川管理道整備および調査・設計、32か所の護岸長寿命化改修等を行いました。上下水道整備では浸水対策整備工事を進めました。

護岸改修距離	合計650m（笹尾川、相割川等）
河川管理道整備距離	100m（横代川）
護岸長寿命化改修	32か所
浸水対策整備工事等	8か所

港湾整備

新門司北地区（俯瞰）

新門司北地区（接写）

- 港湾整備では高潮や堆積土砂等に起因する災害対策（新門司地区、響灘東地区等）を進めました。
- 「北九州市地域防災計画」及び「北九州市国土強靭化地域計画」に基づいて、自然災害時の安全な通行の確保、安全に利用できる水域面積の確保を企図しています。

護岸整備（新門司北地区）	345m
橋面舗装（響灘東地区）	2,100㎡
泊地浚渫（新門司南・日明地区）	合計13,290㎡
整備件数	10件

令和3年度 サステナビリティボンドの資金使途について③

プロジェクト分類	対象事業	環境面での便益
気候変動への適応	■ 災害時の情報収集・伝達体制の整備（総合防災情報システム構築）	■ 自然災害からの被害の予防
汚染の防止及び抑制	■ ごみ処理施設等の整備	■ 大気汚染物質の排出削減 ■ 水質汚染物質の排出削減

災害時の情報収集・伝達体制の整備

北九州市総合防災情報システム

- 気象情報や被災状況を効率的に収集・共有し、正確な情報発信を可能とするシステム（サーバのクラウド化及び機能の拡充）を構築することによって、災害対策本部における迅速かつ的確な意思決定を実現し、市民の安全・安心を守ることを企図しています。

気象情報や被災状況を効率的に収集・共有し、正確な情報発信を可能とするシステムを構築。整備件数：1件

ごみ処理施設等の整備

日明工場建設事業　建設現場

完成予想図

- 大規模災害時に大量発生する災害廃棄物に対応できるよう、焼却工場の安定操業に不可欠な設備で、損耗や経年劣化の激しいものについて、大規模な整備や更新により機能回復を図っています。「第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画」の下、リサイクル率の向上や温室効果ガス削減の取組の一環として整備を進めています。
- 新門司工場、皇后崎工場、日明工場、日明かんびん資源化センター他解体事業等の工場機器整備等を進めました。

整備進行中の工場の数	4か所
リサイクル率	30%以上(R7年度見込み)
CO2排出量	60千トン以下(R7年度見込み)

令和3年度 サステナビリティボンドの資金使途について④

プロジェクト分類	対象事業	環境面での便益
生物自然資源 及び土地利用に係る 環境持続型管理	■ 地域固有の生態系の保全と自然環境に配慮したまちづくり（公園整備等）	■ 干潟の環境維持 ■ 多種多様な希少生物の生息地の保全
エネルギー効率	■ 公共施設のエネルギー消費量の削減（市保有施設の照明のLED化や老朽化施設やエネルギー多消費施設における省エネ機器の採用等）	■ 温室効果ガスの排出削減 ■ エネルギーの利用削減

地域固有の生態系の保全と自然環境に配慮したまちづくり（公園整備等）

曽根・豊岡地区公園整備

- 曽根・豊岡地区は、産業団地エリアと曽根干潟との境界エリアに位置する「緩衝緑地帯」としての役割が求められることから、「環境保全地区」として位置付けられています。また、曽根干潟は、カブトガニの産卵やズグロカモメなど多種類の渡り鳥が飛来する世界でも貴重な生息地として認識されています。

- 曽根・豊岡地区公園整備を始めとする公園整備事業を進め、市内の緑に親しむ公的空間の確保量（一人当たりの都市公園面積）の向上を見込んでいます。（12.87㎡/人）

緑化面積	合計20,006㎡
公園整備面積	合計100,875㎡
市内の緑に親しむ公的空間の確保量（一人当たりの都市公園面積）12.87㎡/人	

公共施設のエネルギー消費量の削減

市民センター空調改修

道路照明LED化

小中学校エアコン更新

- 市民センターの空調改修や、道路照明のLED化、小中学校のエアコン更新等、省エネ性能の高い設備に更新することにより電気使用量及びCO2 排出量の削減を図りました。市民センター25館の空調改修により、冷房時消費電力の14.4%削減、暖房時消費電力の22.6%削減を見込んでいます。

市民センターの空調改修	25館
市民センターの冷房時消費電力	14.4%削減
市民センターの暖房時消費電力	22.6%削減
道路照明44個LED化による消費電力削減	28.9MWh、12.8t-CO2/年
エアコン更新事業（小中学校）	18校

令和3年度 サステナビリティボンドの資金使途について⑤

プロジェクト分類	対象事業	社会的な便益
必要不可欠なサービスへのアクセス	■ 特別支援学校整備 ■ 子ども総合センター整備	■ 誰一人取り残すことなく未来を担う人材を育成する環境を整備

特別支援学校整備

小池特別支援学校 完成予想図

- 小池特別支援学校の老朽化に伴う建替や、小倉総合特別支援学校スロープの増設、既存建築物の解体及びグラウンド整備を進めました。特別支援教育の充実に今後も注力してまいります。

特別支援学校整備施設：2件

小倉総合特別支援学校整備：スロープの増設、既存建築物の解体及びグラウンド整備　利用者数：182人（児童生徒数、R3.5.1時点）

小池特別支援学校整備：現地建替、給食室の移転・改修等。利用者数：152人（児童生徒数、R3.5.1時点）

子ども総合センター整備

子ども総合センター 一時保護所個室

- 子ども総合センター（児童相談所）に保護された児童のプライバシー確保や感染対策のため、学習室や倉庫のスペースを活用して個室を増設したり、大部屋に間仕切りを設置するなどの改修を行い、一時保護所の生活環境を整備しました。
- 更に、ウェルとばた７階消費生活センターの一部を子ども総合センター執務室として改修し、職員増員に対応できるよう執務環境を整備しました。

一時保護所機能強化：個室の増設、大部屋を間仕切りで個室化できるように改修（約90㎡）　個室数：6→12室

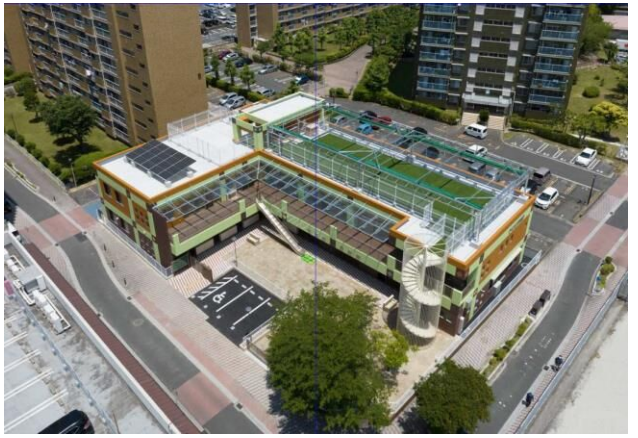
執務室拡張：ウェルとばた7階消費生活センターの一部を子ども総合センター執務室として改修（約197㎡）　職員数（7階）：約30人

令和3年度 サステナビリティボンドの資金使途について⑥

プロジェクト分類	対象事業	社会的な便益
必要不可欠なサービスへのアクセス	■ 保育所等整備 ■ 小中学校等整備	■ 誰一人取り残すことなく未来を担う人材を育成する環境を整備

保育所等整備

金田保育園 改築工事



- 受入れ可能な児童数の増加、待機児童数0に向けた取組として、金田保育園、清滝保育園を始めとする保育所の老朽改築に伴う施設整備や、老朽化直営保育所施設改修工事を6所について実施しました。
- **老朽化直営保育所施設改修工事　対象施設6所**：

今町保育所、徳力保育所、堂山保育所、黒崎保育所、西戸畑保育所、第2緑地保育センター

- **老朽改築等に伴う施設整備　対象施設6所**：

天籟寺保育所、清滝保育園、金田保育園、貴船保育園、松美保育園、ひびきの保育園分園（創設）

老朽化直営保育所施設改修工事	6所　定員数：520人
保育所の改築・創設	6所　定員数：569人

小中学校等整備

大里南小学校 大規模改修工事

（改修前）

（改修後）

- 包摂的で安全な学習環境を整備するため、学校施設等の改修工事や教育装置の整備等を実施しました。

学校施設等改修	小学校15校、中学校11校
大規模改修	小学校13校、中学校3校
外壁改修	小学校7校、中学校3校
デジタル化に対応した産業教育装置の整備：市立高等学校商業科実践室6教室	
学校トイレ整備	小学校10校
消防設備整備　小・中学校27か所、特別支援学校3か所	
利用者数 （市内の生徒数/学校数で算出、R4.5.1時点）	小学校：352人/1校中学校：361人/1校

令和3年度 サステナビリティボンドの資金使途について⑦

プロジェクト分類	対象事業	社会的な便益
必要不可欠なサービスへのアクセス	■ 新科学館等整備	■ 誰一人取り残すことなく未来を担う人材を育成する環境を整備
手ごろな価格の基本的インフラ設備	■ 区役所の自家発電設備整備 ■ 避難場所、消防施設等の整備・ 改修	■ 防災機能の強化等

新科学館等整備

新科学館 スペースLABO

- 児童文化科学館の老朽化等に伴う新科学館の整備を実施しました。展示及び内装・設備、プラネタリウムの整備を行い、利用者数は令和4年度以降、年間50万人を見込んでいます。
- 老朽化した青少年施設「もじ少年自然の家」の改修工事も実施しました。施設の長寿命化により、社会教育施設としての役割の強化を進めています。

新科学館の整備（展示及び内装・設備、プラネタリウム） 面積：5,470㎡、利用者数（令和4年度～）：50万人/年を見込む

もじ少年自然の家（老朽化した青少年施設の改修工事）面積：3,566㎡、利用者数：約8,000人/年

区役所の自家発電設備整備 /城野市民センター建替

小倉北区役所 非常用自家発電設備

城野市民センター

- 災害時の区対策本部として、災害拠点となる区役所の機能保持を図るため、小倉北区役所の自家発電設備を整備しました。
- また、耐震基準を満たしていなかった城野市民センターの建替えにより、地震時にも予定避難所としての利用が可能となりました。今後も一般の市民および災害等発生時の被災者を対象とする基本的インフラ整備を推進してまいります。

小倉北区役所の自家発電設備の整備による、災害時の区対策本部の機能保持に必要な電力確保、電源供給時間の延長：東棟 52時間→57時間、西棟 26時間→57時間　※災害時の必要電力等を想定した条件下での推計

城野市民センター建替による予定避難所としての受入人数（城野小学校区：148人）

Kitakyushu
SDGs

本資料に関するお問い合わせ先

北九州市財政局財務部財政課

〒803-8501　北九州市小倉北区城内1番1号

TEL：　093-582-2003

FAX：　093-582-2070

E-mail：zai-zaisei@city.kitakyushu.lg.jp